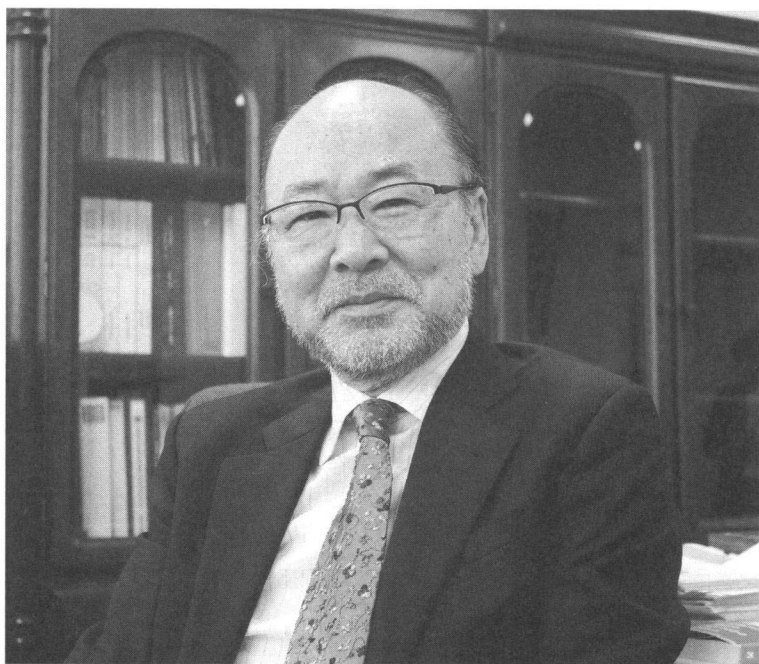




HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	新田孝彦教授 略歴と業績
Citation	哲学, 53, 1-4
Issue Date	2019-01-04
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/75481
Type	other
File Information	53_t1.pdf





新田孝彦教授 略歴

一九五一年八月七日生

学 歴

一九七〇年三月 山形県立新庄北高等学校卒業

一九七〇年四月 北海道大学文類入学

一九七四年三月 北海道大学文学部哲学科倫理学専攻課程卒業

一九七四年四月 北海道大学大学院文学研究科修士課程（哲学専攻）入学

一九七六年三月 同 修了

一九七六年四月 北海道大学大学院文学研究科博士後期課程（哲学専攻）入学

一九七七年一〇月 同 中途退学

学 位

一九九四年九月 博士（文学）（北海道大学）

論文題目「カントと自由の問題」

職 歴

- 一九七七年一月 北海道大学文学部助手（倫理学講座）
- 一九八四年七月 愛知県立大学文学部講師（一般教育）
- 一九八七年一〇月 北海道大学文学部助教授（総合文化論講座）
- 一九九五年八月 北海道大学文学部教授（倫理学講座）
- 二〇〇〇年四月 北海道大学大学院文学研究科教授（倫理学講座）
- 二〇〇四年四月 北海道大学大学院文学研究科研究科長・文学部長（～二〇〇六年三月）
- 二〇一一年四月 北海道大学理事・副学長、附属図書館長、大学文書館長（～二〇一七年三月）

業績表

I 著書・編著・翻訳書

- 1 単 著：『カントと自由の問題』、北海道大学図書刊行会、363pp. 1993年12月。
- 2 共編著：『カント哲学のコンテキスト』（宇都宮芳明・熊野純彦・新田孝彦編）、北海道大学図書刊行会、317pp. 1997年2月。
- 3 単 著：『入門講義 倫理学の視座』、世界思想社、270pp. 2000年10月。
- 4 共訳書：カント『純粋理性批判 上・下』（宇都宮芳明監訳・宇都宮芳明、鈴木恒夫、田村一郎、新田孝彦、嶋崎正躬共訳）、以文社、1016pp. 2004年4月。
- 5 共編著：『科学技術倫理を学ぶ人のために』（新田孝彦・石原孝二・蔵田伸雄編）、世界思想社、287pp. 2005年7月。

6 共編著：『オムニバス技術者倫理』（北海道技術者倫理研究会）、共立出版、215pp、2007年4月。

Ⅱ 論文（単著）

- 1 「ヤスパースにおける実存的交わりの構造」、北海道哲学会編『会報』第24号、pp.1-13、1977年7月。
- 2 「ヤスパースの理念論」、北海道大学哲学会編『哲学』第14号、pp.71-89、1978年7月。
- 3 「シェリングの自由論—実存論的視点からの考察—」、日本倫理学会編『倫理学年報』第30集、pp.119-134、1981年3月。
- 4 「義務と責任—カントの道德的責任論—」、北海道大学文学部紀要』31-1、pp.1-42、1982年9月。
- 5 「人格の尊厳—カントにおける道德性の基礎概念—」、日本哲学会編『哲学』第34号、pp.117-127、1984年5月。
- 6 「行為・格率・法則—カントにおける義務の規定方式について—」、『愛知県立大学創立二十周年記念論文集』、pp.986(1)-986(21)、1985年3月。
- 7 「倫理規範と人格の尊厳」、日本倫理学会編『倫理学年報』第35集、pp.37-52、1986年3月。
- 8 「普遍化可能性と相互主体性—カントにおける倫理基準の統一的理解のために—」、『愛知県立大学文学部論集』第35号、pp.1-17、1987年3月。
- 9 「功利性と道德性」、『北海道大学文学部紀要』37-1、pp.23-54、1988年11月。
- 10 「行為と出来事—カントの自由論に即して—」、日本倫理学会編『倫理学年報』第39集、pp.35-50、1990年3月。
- 11 「パターンリズム—その概念の問題性—」、北海道哲学会編『会報』第37号、pp.24-31、1990年7月。

- 12 「インフォームド・コンセントの哲学的基礎づけ―功利主義かカント主義か―」、千葉大学教養部倫理学教室編『プラクティカルエシックス研究』、pp. 109-117、1994年3月。
- 13 「人格と自由」、宇都宮芳明・熊野純彦編『倫理学を学ぶ人のために』、世界思想社、pp. 78-100、1994年9月。
- 14 「いのちを救うことの倫理的問題―功利主義的道徳理論の再検討―」、土山秀夫・井上義彦・平田俊博編『カントと生命倫理』、晃洋書房、pp. 125-147、1996年4月。
- 15 「カント実践哲学の構造」、宇都宮芳明・熊野純彦・新田孝彦編『カント哲学のコンテキスト』、北海道大学図書刊行会、pp. 58-80、1997年2月。
- 16 「いのちをめぐる倫理」、馬渡峻輔・木村純編『21世紀・新しい「いのち」像』、北海道大学、pp. 247-274、2000年3月。
- 17 「技術者としていかに行動すべきか(1)」、札野順編『技術者倫理』、放送大学教育振興会、pp. 79-100、2004年3月。
- 18 「羅針盤としての定言命法―カント道徳哲学の意義―」、『別冊情況 特集カント没後200年』、情況出版、pp. 90-100、2004年12月。
- 19 「科学技術倫理とは何か」、新田孝彦・石原孝二・蔵田伸雄編『科学技術倫理を学ぶ人のために』、世界思想社、pp. 3-24、2005年7月。
- 20 「自由と道徳法則」、坂部恵・有福孝岳・牧野英二編『カント全集』、別巻『カント哲学案内』、岩波書店、pp. 225-240、2006年3月。
- 21 「倫理なんて怖くない」、北海道技術者倫理研究会編『オムニバス技術者倫理』、共立出版、pp. 13-24、2007

年4月。

22 「世界市民としての専門職業人―専門職倫理の綱領的理念―」、北海道大学大学院文学研究科応用倫理研究教育センター編『応用倫理』、vol. 1、pp. 1-14、2009年3月。

23 「指導教員・研究機関の責任」、眞嶋俊造・奥田太郎・河野哲也編『人文・社会科学のための研究倫理ガイドブック』、慶應義塾大学出版会、pp. 129-154、2015年10月。